

平成27年度 第1回 地域公共交通会議議事録

日時：平成27年6月18日（木） 午後1時30分～午後2時30分

場所：有田市役所4階 市長応接会議室

（出席委員） 成川満、廣瀬洋一、平田克也（代理：川村）、鈴木孝志（代理：山本）、田中守、橋爪嘉郎、高垣太郎（代理：上平）、森下清司、西村芳通、田村政博、鹿島久義、永田和之（代理：太田）、今津太志（代理：加藤）

（欠席委員） 中川義朗、北村修、高瀬秀彰

（出席事務局職員） 辻川経営管理部長、嶋田経営管理部理事、大松経営企画課長、石井まちづくり係長、馬場まちづくり係主事

（議 事）

協議事項1 副会長の選任について

議案第1号 平成26年度決算の承認について

議案第2号 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について

1. 開会（事務局）

ただいまより、平成27年度第1回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんの出席をいただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに成川会長よりご挨拶よろしくお願いたします。

2. 会長挨拶

皆さん、どうもこんにちは。

委員の皆様にはお忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議、ご検討いただきまして、地域内フィーダー系統確保維持計画に基づきまして、計画的かつ効果的な事業実施を行っているところでございます。

前回の会議では、ダイヤ改正案についてご協議・ご承認をいただきまして、5月1日から新しいダイヤ及びルートで運行しているところでございます。

デマンドバスも早や8年目の運行を迎えておりまして、今後とも市民の皆様々に地域の公共交通機関として親しまれるように努めていきたいと思っております。

つきましては、本日、平成26年度決算も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方について、活発にご協議していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は皆様、ご苦勞様でございます。よろしくお願いたします。

3. 委員紹介（事務局）

ありがとうございました。新年度となりまして、委員様方におかれましては、職場の人事異動等により委員の交代がございました。この度新たに4名の方に委員にご就任いただきましたので、事務局より委員様全員をご紹介させていただきます。

(委員紹介)

委員様におかれましては、今後とも当会議の運営にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。成川議長よろしく願いいたします。

4. 議事

(成川議長)

それでは早速ですが、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、協議事項1件、議案2件の計3件です。

まず、協議事項1「副会長の選任について」を事務局より説明願います。

(事務局)

それでは、協議事項1の「副会長の選任について」をご説明申し上げます。

お手元にお配りした資料の最終ページにある参考資料、有田市地域公共交通会議要綱をご覧ください。

平成27年4月に前副会長の脇村忠次連合自治会長が辞任され、現時点では副会長が不在となっております。つきましては、要綱第4条第1項の規定により、「委員となるべき者の中からこれを選任する」となりますので、よろしく願いいたします。

(成川議長)

説明が終わりました。それでは、副会長の選任を如何取りはからいましょうか。

(事務局一任の声)

(成川議長)

事務局一任との意見がありますが如何でしょうか。

(異議なしの声)

(成川議長)

ありがとうございます。それでは事務局より提案願います。

(事務局)

事務局に一任いただきありがとうございます。

それでは例年に倣いまして、連合自治会副会長の田中守様をお願いをしたいと思います。

(成川議長)

田中守連合自治会長とのことですが、如何でしょうか。

(異議なしの声)

(成川議長)

それでは、ご苦勞ではございますが、田中守 連合自治会長に副会長をお願いしたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、つづきまして、議案第1号「平成26年度決算の承認について」を事務局より説明願ひます。

(事務局説明)

議案第1号「平成26年度決算の承認について」をご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧下さい。当会議の平成26年度決算報告ということで、歳入といたしまして、有田市からの負担金30,432円となっております。2.の繰越金につきまして、26年度はありませんでしたので、0円となっております。また、3. 諸収入といたしまして広告料収入等で204,020円となっております。以上、歳入合計で234,452円となっております。

続きまして、歳出といたしまして、1. 運営費の会議費で30,000円、事務費といたしまして432円、2. 事業費としまして、先ほどの広告料収入等の204,020円を事業者の中紀バスさんに支出しております。3. 予備費はありませんでしたので、歳出合計といたしまして234,452円となり、歳入・歳出同額となっております。それから、バス運行に関する国庫補助金は、事業者の中紀バスさんが直接申請をして、直接中紀バスさんに入りますので、それ以外の経費、当会議の運営経費の決算報告ということになります。

また、資料の3ページにデマンドバスの平成26年度収支実績も参考につけさせていただきます。収入につきましては、運賃収入で1,814,500円、国庫補助金が26年度下半期分で6,574,500円、27年度上半期分で5,677,000円、合計14,066,000円となっております。支出につきましては、運転手の人件費で6,332,478円、一般管理費人件費で1,987,478円、燃料代1,399,363円、バスの修繕費1,434,330円、車両使用料6,480,000円、合計17,633,649円となっております。先ほど説明しました当会議から支出しています広告料収入につきましては、これ以外の経費、利用促進にかかる経費や事務費に充てられております。

ご質問、ご意見等をいただく前に要綱第10条第3項の規定に基づき、2名の監事様に監査していただいておりますので、山崎監事よりご報告をお願いいたします。

(監査報告)

(成川議長)

ただいま監査報告が終わりました。平成26年度有田市地域公共交通会議の決算について、ご意見・ご質問はございませんか。

(成川議長)

広告料収入は減ってきているのですか。

(事務局)

はい、減ってきております。

(成川議長)

事業者である中紀バスさんにご意見伺いしましょうか。

(高垣委員代理)

有田市に住んでいる方ならだいたいご存知の会社様にご協力いただいて広告していただいているんですけども、先ほどもおっしゃられましたように、もう8年くらいになってくるんですね。停留所とか車にも載せさせていただいているのですが、広告の費用に対しての効果があまりないということで、広告主様に、もう厳しいと言われる所が何社かありまして、こちらもそれを言われてしまいますと、無理を言うということとはなかなかできませんので、また、他のところにも改めてお願いにも行ったりするんですけども、有田市内だけということになりますので、外部から、お客さんを連れてくるというのがなく、広告の効果と言うのがあまりありませんので、そういう点で減っていているような状況です。

(成川議長)

これは規定で市内の業者でなければならないのですか。

(事務局)

それは大丈夫です。

(成川議長)

市外の業者さんでも、有田市の人がよく利用されるような所もあるかもわからないし、不景気なので、減っていくのはやむを得ないんですけども、やはり地域公共交通を維持していこうというのを皆で賛成してもらって、皆の便利の為に維持していこうというような、賛成してもらおう賛助金というような主旨で、できるだけ多く広告に参加していただくよう、努力していただけたらありがたいです。

どうぞ、みなさん、なかなかこういう機会も少ないので、事業者の方もお見えですので、色々ご質問等あれば、決算と言ったら数字だけなんですけれども、中には全ての事業が含まれていますので、どうか、よろしく願いいたします。

(意見及び質問なし)

(成川議長)

特にご意見が今のところないようですので、色々これを進めていって、また総括してその他のところでも、色々なご意見を承る機会もございますので、議事を進めて参ります。

26年度の決算につきまして、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)

それでは、議案第1号「平成26年度決算について」はご承認いただくということでありがとうございます。

それでは引き続き、議案第2号「平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について」を説明願います。

(事務局説明)

議案第2号の説明に入る前に、山崎監事につきましては、他の業務のため、ここで退席させていただきます。ありがとうございました。

それでは、地域内フィーダー系統確保維持計画の概要から説明いたします。資料は4ページからになります。バスの運行経費に対する国庫補助金を活用するためには、本計画を法定協議会である当会議で策定、承認をいただき、毎年6月末までに国土交通省に提出しなければなりません。フィーダー系統とは、バスの停留所、鉄道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統をいいます。地域間交通ネットワークとは、複数の市町村間にまたがる公共交通網のことであり、有田市デマンドバスは、JR箕島駅で鉄道と乗り継ぎできるようにしております。

また、28年度の意図ですが、この計画は平成27年10月から平成28年9月までの運行分となっております。国の予算では、平成28年度予算から補助金が支出されますので、10月までに補助額の内定をいただいております。

続きまして、計画の内容について説明させていただきます。資料の6ページをお開きください。

まず、1. 目的と必要性では、高齢化率が高くなってきている本市において、高齢者を始めとする交通弱者の方たちの買い物や通院などの交通手段として、低運賃で乗車できるバスの運行が必要不可欠であり、そのために、この計画を安全で安心して利用できる公共交通機関の存続と市の活性化を図るための計画として、行政のみでなく地域住民及び交通事業者等が一体となって総合的に推進していくものとして位置づけております。

2. 定量的な目標・効果ですが、公共交通空白地域の解消、年間輸送人員・運賃収入の前年度並みの維持、高齢者等の社会参加の促進、というようにしております。また、事業の効果といたしまして、高齢者による交通事故をなくすため、マイカーなしでも通院や買い物が出来、快適に暮らせる地域づくりを目指すとしています。

次に、3. 運行系統の概要及び運行予定者及び4. 費用の総額、負担者及びその負担額については、別表1・2のとおりとなっておりますが、こちらが資料12ページ以降になります。これは許可運行系統別の経費についてまとめられたものです。

12ページをご覧ください。現在AコースとBコースで停留所の回り方がそれぞれ3パターンずつございまして、合計6系統となっております。右から2番目の列には、先ほど説明いたしました、すべての系統でJR箕島駅と接続していることを記載しております。このことで、補助基準に適合していることを表しています。その表を12ページ以降、平成28年度から30年度の3ヶ年分を添付させていただきます。

次に、経費につきましては、15ページをお開きください。大変細かく見づらいののですが、このページはバスの走行キロ数、キロ当たり標準単価、補助対象経費の限度額などにより要綱で定められた算定を行っています。簡単に申し上げますと、これは補助金額を算出するもので、運行回数や運行距離、人件費など中紀バスさんの経営状況を踏まえた計算で出した金額と、別に地域上限額が決められておまして、比較してどちらか少ない方が補助申請額となります。その内容について、具体的に説明させていただきます。

15ページの一番下の表を見ていただきまして、右から4番目のツの列、補助対象経費が合計36,870千円となっております。その1/2の金額である18,435千円を国の方で補助していただくということになっております。それが隣のネ欄になります。それとは別に国庫補助上限額というのが決まっております、それがもう一つ隣のナ欄の額9,118千円となります。補助対象経費の1/2の金額と、国庫補助上限額のいずれか少ない方の額が国庫補助金内定申請額となりますので、9,118千円が28年度の補助申請額となります。この、補助上限額は、交通不便地域の対象人口を基に計算しております。対象人口については後ほど説明させていただきます。この表についても、15ページ以降、平成28年度から30年度の3ヶ年分を添付しておりますので、またご参照ください。

7ページにお戻りください。上から7行目、計画の4.に記載しているとおり、有田市から運行事業者への負担金については、実績運行経費から国庫補助金を差し引いた差額分を負担することとしています。しかし、予算も限られているため、今のところ不足する額については事業者が負担するというようお願いをしております。

場合においてはプラス300万というのをあげましょう、といった上限額の設定方法になります。ですので、このまま少子高齢化・人口減少が進む中でやはり全体の交通を見直す際にですね、こういった計画を策定されるのであれば、補助金の下がり方もおさまってくるのではないかなというところがございます。補助金に関する動きというのがこういう風になっております。

(成川議長)

ありがとうございます。

この地域公共交通再編実施計画というのは、義務的につくるのではなくて自主的につくるんですね。

(廣瀬委員)

そうです。まず地域公共交通網形成計画を作成していただいて、さらにそれを実際に実現するために再編していくという風になります。

形成計画までは策定して届出る事になっておりますけれども、再編実施計画については国の認定が必要になっています。

(成川議長)

全体の動きとしてはやはりどんどん補助率、単価だと思っておりますけど、落ちているんでこういうところへみなさんやはり力を入れていくというかそんな感じなんですかね。

(廣瀬委員)

そうですね、この補助金だけを見てこの計画をつくるには少し重たい計画かもしれませんが、やはり将来の交通体系を見直す時期にはきているのではないかなというところですね。

(成川議長)

見直すとして、こういう要件、例えば計画をつくる時にこういうポイントを修正・見直したらというのはだいたい分かるのですか。

(廣瀬委員)

そうですね、今までも法律ですとか主旨に沿った格好で策定しているところもありますので。

それはまた、もし公共交通網形成計画を策定される際にはご相談いただけたらと思います。

(成川議長)

その際にはよろしく願いいたします。

他にございませんか。

個人的に気になっているのは、この策定の計算式を見たら国調人口の人数をかけているんですけども、確か今年が国勢調査の年で、まず増えることはないんで、さっき、漸減していきますよということだったんですけども、この計算式でいくと、国調人口が新しい数値に、まだ来年以降ぐらいかな、確定するのは。それによってもう一段階下がるという可能性もあるわけですね。

(廣瀬委員)
そうですね。

(成川議長)
あくまで予想ですが、見通しはあまりよくないと思います。
どうぞみなさん、せつかくの機会なので、分からない所とかありましたら。

(意見及び質問なし)

(成川議長)
それでは、議案第2号「平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画」について、
ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)
ありがとうございます。
では本日の議案1号の決算と議案2号の計画についてご承認いただいたということで
ありがとうございます。
その他は事務局なにかありますか。

(事務局)

まず、参考資料といたしまして、31ページから33ページにかけて直近3年度分の
利用者数の資料を添付させていただいております。Aコース・Bコース・両コースの乗
車人員を載せさせていただいておりますので、またご参照いただきますようお願いいた
します。

あとですね、先ほど申し上げましたアンケートについてですが、34ページ以降に資
料をつけさせていただいております。36ページにアンケートの調査結果ということで
記載させていただいております。まず、アンケートの実施期間なんですけど、平成26年7月
～平成26年12月にかけて実施をしました。対象者は有田市のデマンドバスの利用者
ということで乗車された方に配布するという形で実施しました。回答者数は68名になっ
ております。

36ページから42ページまで載せているんですけども、その中で36ページの設
問1をご覧ください。このアンケートの結果を踏まえまして、まず保田地区・宮崎地区の
利用者が多い事、年齢は65歳以上の高齢者の方の利用が多い事から交通の空白地域で
あるとか、交通弱者である高齢者の方が多く利用されているということでこのデマンド
バスとしての一定の役割は果たしているといえます。

次に40ページを見させていただきまして、平成26年5月のダイヤ改正について伺った質
問なんですけれども、前回の方が良かったという回答が目立つんですけども、アンケ
ートを実施したのが改正直後ということで、前回の時刻で慣れていた方にとっては、前
回の方が良かったという意見になると思います。ですので、この結果については、もう
少し経過をみる必要があると考えております。

他にもそれぞれの項目結果を掲載しておりますので、またご参照下さい。42ページ
の自由意見欄には色々いただいた意見をいくつか抜粋して掲載しております。

アンケート結果については以上になります。

(成川議長)

昨年の7月から12月にかけてアンケート調査を実施しましたので、その報告をいただきました。

42ページは、アンケートの自由記載の欄があってその書いてもらった意見をここに記載しているんですね。

(事務局)

はい。

(成川議長)

先ほどアンケート調査自体がダイヤ改正の直後だったのでそういう結果も一部でっており、経過をみるということだったんですけれども、このアンケート調査というのは継続してやるんですか。

(事務局)

はい、本会議の結果を踏まえて、推移をみていくということでしたらまたアンケートというところも検討していきたいと思っております。

事業者の方にもご協力いただいた中で、実施をしていくことになると思っていますので、実際の乗降者のご意見というものは今後も継続してお伺いしていく、これは大事なことだと思いますので、引き続き努めて参りたいと思います。また、中紀バスさんの方にもご協力を、ご相談等させていただきながら。

(成川議長)

そうですね。一番分かっているのは事業者である中紀バスさんだと思いますので、アンケートでこういう結果が出ていますけど、実際やっておられる事業者として中紀バスさんどうですか。

(高垣委員代理)

そうですね。今回時刻とコースを改正して、前の方が良かったという声もあったということで、もちろん実際現場で走っている運転手の意見なども聞きながら、この時間帯でこのルートで利用させるお客様がいるのを知っており、変えたらこのお客様が使い辛くなるということのももちろん認識しながら行っています。その中で、運転手に言われたのが、今はこの時間にこのお客様が使っているけれども、時間を変えたら多分また違うお客様が使われるということも出てくると思いますので、そこにあまりこだわらずに一回やってみたらいいのではということです。このように、現場の声を聞きながら行ったというのが経緯としてあります。

当然のことながら、今までご利用いただいた方が使い辛くなったので、前の方が良かったという声が上がってくるのは仕方ないのかなというのはあります。

だいたいざっくり作った後で現場の運転手にコースと時間を見てもらって、意見等聞きながら行っているということをご報告させていただきます。

(成川議長)

自由記述欄で、こういう意見が全体の中の何パーセントくらい多数占めていますとか、そういうのはカウントはしていないんですね。

(事務局)

自由記述欄につきましてはそれぞれ1件です。まとめてはいないです。

(成川議長)

こういう利用者の意見というのは一番大事なので、できることできないことあるけれども、受け止めて、より良い方向に改善していく。例えばお金の要ることですけれどもお年寄りの利用が多いということでドアの入り口に手すりをつけてほしいなんていうのは切実なご要望で。やはり公共交通機関なので、人に優しい、思いやりのあるかつ便利、そういう方向に。せっかくアンケート行ってそのままにしておいたら意味がないので活かすように事務局と事業者の方にもぜひよろしく願いいたします。

他にございませんか。一応議題も終わっていますし、アンケートも報告いただいたので、この機会に公共交通会議そのものについてですね、こういうことどうなんですかというのがありましたら、どうぞお願いいたします。

(廣瀬委員)

このアンケートのダイヤ改正はどうしてダイヤ改正されたのですか。

(成川議長)

見直しするんですよね。何年かに1回。

(高垣委員代理)

だいたい2、3年に1回程度で今まで行ってまして、前回の時刻表から変えてみて、増えるか増えないかというのも兼ねて運行しているという感じですね。

(田中委員)

例えばBコースの、矢櫃からだと箕島駅までとなっているんですけどもざっと何分くらいかかるとかというのは分かっているのですか。

(事務局)

はい、時刻表に箕島駅着というところがありまして、ほぼ時刻どおりに動いています。一回自分が乗ったときもぴったり時刻どおりの到着でした。

(高垣委員代理)

ただ、時間によって利用される方が多いと遅れてしまいます。乗り降りに時間がかかるので。

(成川議長)

まあ、運営も大変ですけれどもこれからどんどんこうやって利用したい層というのは人口減少社会ですけれども、実は逆に増えていきますので。高齢者というのは。需要はしばらくはあると思います。

(事務局)

はい、国の大きな流れとしましてコンパクトシティというのもありまして、その中での交通弱者への対応としてこのような公共交通を官民一体となって取り組むというのが課題として挙げられております。

(成川議長)

一生懸命ご議論いただいてより良いものをつくっていくんですけども、実際の現場を知らないと机上の空論になるかも分からないので、ぜひ、機会がございましたら実際にデマンドバスへ乗っていただけたらと思います。

時間も経過して参りましたので、めったにこういう会議をひらく機会はないんですけども、きちんと事務局機能していますので、こういうことも聞きたかった等ありましたらいつでも担当の方へご連絡いただいて、ご提言も大歓迎ですのでよろしく願いいたします。

他にご意見ございませんでしたら本日の会議を終了させていただきたいと思います。お忙しい中ありがとうございました。また次回よろしく願いいたします。

5. 閉会